

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
 発行・平成22年9月10日・第6号通信
 責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会長)
 〒500-8003 岐阜市大宮町1-17 ☎058-263-9540
 事務局長・河崎良史
 E-mail・malo@he.mirai.ne.jp

3年目を迎え新たな取り組みを展開中

平成22・23年度の役員

- | | |
|------|-------------|
| 会長 | 堀 達夫 |
| 副会長 | 小林 孝夫 |
| | 杉山 秀子 |
| | 堀 智仙 |
| 事務局長 | 河崎 良史 |
| 会計 | 名和 利夫 |
| 幹事 | 安藤 幸延 伊藤いつお |
| | 北川 英生 杉山鉦一郎 |
| | 鈴木芙美子 高橋紀久子 |
| | 武井 英男 中村 末雄 |
| 会計監査 | 杉山 周三 杉山 範彦 |
| 相談役 | 高橋かずえ 松原 和生 |
| | 吉田 好成 |



岐阜市副市長武政 功氏が来賓の挨拶(4月29日、市歴史博物館にて)

平成22年度総会に出席ありがとうございました

井の口まちづくり会会長 堀 達夫

早いもので「井の口まちづくり会」も発足以来まる2年が経過いたしました。

この間、古き良き井の口のまちを大切に保全し、且つ、より素晴らしいまちにして次の世代に引き継いでいくことを基本として、諸々の事業に取り組みできました。

3年目となる本年も引き続き数々のイベントの開催をはじめ、先進まちづくりの視察研修、景観対策などを実施いたしますとともに、新たな取り組みとして歴史と風情が残るこの井の口地区にふさわしい「アートのまちづくり活動」を展開して参りたいと存じます。

会員の皆さんの一層のご支援をお願いしてやみません。

平成22年度の部会活動とメンバーの紹介

22年度の部会活動がすでにスタートしています。イベント部会は、大仏フェスティバル、岐阜公園イルミネーションへの協力と2月に井の口寄席を実施し、3月頃に茶会の催しを予定しています。まちの歴史探索部会は、昨年に続き句会を開催し、御鯨街道ウオークへ協力を行います。まちの風景検討部会は、バス視察研修をはじめ道路拡幅に関する勉強会に加え、まちの探索を実施します。新設のまちなかアート部会は、お月見会や大仏様への年賀状の催しなどを実施します。広報通信作成部会は、事務局と役員で構成することになりました。

下記に各部会メンバーを紹介します。一緒にまちづくり活動をしていただけるメンバーをいつでも受け付けています。

- イベント部会

杉山 秀子 (◎)	河崎 良史 (○)
高橋紀久子	高橋かずえ
後藤 勝利	篠田 壽夫
杉山鉦一郎	神山 明
- まちの歴史探索部会

河崎 良史 (代行)	中村 末雄 (◎)
森 勝彦 (○)	北川 英生
杉山 周三	安藤 幸延
鷺見 善治	鷺見 玲子
塚原 紀好	森 喜彦
- まちの風景検討部会

小林 孝夫 (◎)	堀 智仙 (○)
名和 利夫	松原 和生
木野村英機	野々村聖子
澤田 勝美	
- まちなかアート部会

伊藤いつお (◎)	杉山 範彦 (○)
鈴木芙美子	武井 英男
伊藤 克司	矢島 康治
山吉 りか	小林 教子
馬場わかよ	
- 広報通信作成部会

事務局 (◎)

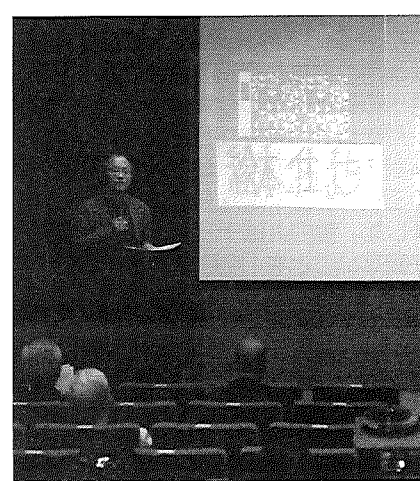
会長・副会長・部会リーダー

◎はリーダー ○は副リーダー

延藤先生は、金華、特に井の口地区を何度も訪れていて、みんなでこの地区の宝を見直すと同時に、大切に育てていくことの重要性を幻燈を駆使して訴えられました。歴史的、文化的に重要な寺院をはじめ、手づくりのお店、窓辺の飾り付け、そして見上げれば金華山にそびえ立つ岐阜城の素晴らしい景色など。私たち井の口地区の住民は、これらの宝に一層の磨きをかけて、子孫にプレゼントしていくことを心掛けたと感じました。

また、先生が実践されている「まちの縁側育み隊」の活動紹介や、子どもの視点からまち育てを考える、すなわち子ども達の想像力に期待してまちづくりに取り組むことの大切さを訴えられ、講演内容に深く共感を覚えました。

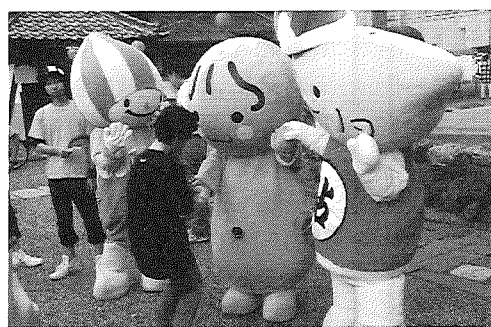
(堀)



愛知産業大学大学院教授 延藤安弘氏

総会特別講演

まちの宝を活かして、歩いて楽しいまちづくり



撮影・篠田壽夫氏

ハッスルしました子どもたち 大仏さんも粋なはからい?

7月18、19日の両日、第23回ぎふ大仏フェスティバルが行われました。井の口まちづくり会では、イベント部会を中心に、このフェスティバルの盛り上がりにより一役買おうと、3年前から協賛しています。

今年も、初日には「みんなでオセロ」、2日目には「カンカンはこび」を実施。オセロでは表が白、裏が黒のプレートをあらかじめ各80枚ずつ並べておき、それを制限時間内に裏返して自分のチームの色を多くした方が勝ち。カンカンはこびは自分のチームの箱にある空き缶を相手チームの箱へ運び、味方の箱の中の空き缶を少なくした方が勝ちというもの。両日とも猛暑の中、ちよつとハードなゲームのため汗まみれになって必死に参戦した子ども達は大ハッスルでした。大仏さんの粋なはからいというべきか、2日目の勝負が引き分けとなる予想もしなかった結果にみんながびっくり! 全員に賞品を差し上げ楽しいひとときを過ごしました。

なお、井の口まちづくり会の活動がゲームの模様を含めて岐阜新聞に大きく掲載されました。(森)



バスの車窓からもこの飾り窓が見られるように、ハナミズキの街路樹が除けられている。

まちなかお宝アート発見 鷺見邸の飾り窓

誰もが知っているまちの風景。鷺見邸(上茶屋町)の小窓に飾られる花に、一枚の絵を見るような思いを感じた方も多いことでしょう。

戦前から茶道具商を営む先代がこの窓に茶花のあしらいを始め、四季折々に庭に咲く花や手に入れた花で今のご主人でも40年以上続けてみえます。冬でも何日も同じ花はないと周りと言うほどご主人のこだわりを映し、特に夏場は窓の中はサウナ状態なので氷を入れたり1日で花を替えたりと陰で奥様が支えられます。

濃尾震災でも焼けなかったというこの家の玄関は、舟底天井に坪庭がしつらえられ、茶室がある趣のあるお宅です。中を拝見できなくても、飾り窓からこの家の住人のアート感が伝わってきます。

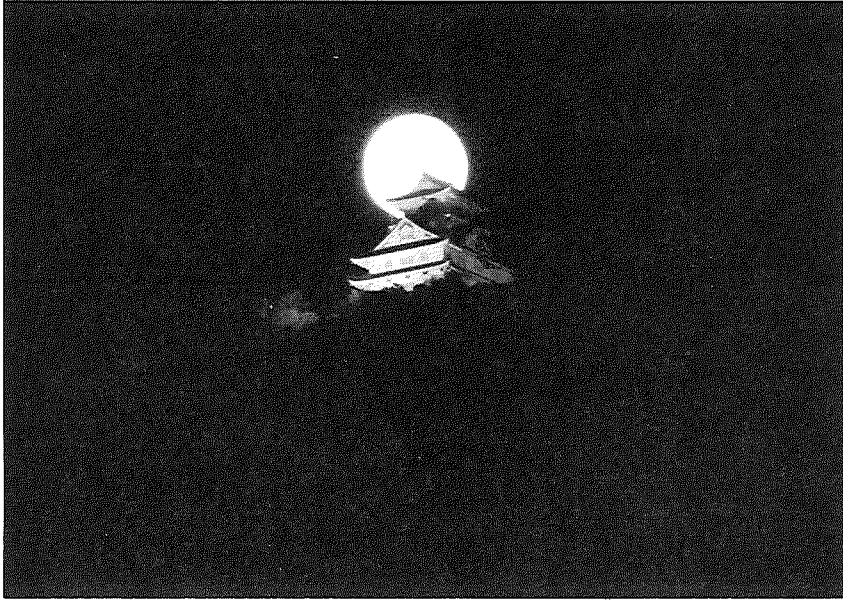
(馬場)

まちなか お月見アートを開催

金華山にかかる仲秋の名月をめぐる4日間

9月20日(敬老の日)・21日(火)・22日(十五夜)・23日(秋分の日・望)

23日は井の口のまちの3つのエリアをお月見スタンプラリーで回しましょう



岐阜城にかかる晩秋の名月(一昨年)、撮影・矢島康治氏

お月見の豆知識

暦では8月の立秋からを秋としていて、8月を初秋、9月を仲秋、10月を晩秋と称して旧暦8月15日の月を「仲秋の名月」と呼んで尊びました。唐の時代の中国でもこの美しい満月に収穫期の野菜や果物を供えて月を拝み、鑑賞していたとされ、この風習が平安時代の日本に伝わり貴族社会に受け入れられブームとなりました。日本人の心と月をめぐる感覚がうまくマッチして、江戸時代には一般家庭や農村にまでひろがり、この時期、畑で取れる芋を供えたことから「芋名月」となり、10月の十三夜には豆や栗を供えることから「豆名月」「栗名月」といわれるようになりました。昔の人は十三夜にも同じ場所で月を観ることとしていて、片方だけしか観ないことを「片月見」といって嫌いました。

ススキとアートでお月見の風情を演出

今年度からスタートしたまちなかアート部会は、井の口に残る城下町の風情と、静かで趣のあるこの町並みを活かして、にぎわいとまちの一体感、そして美しさを創出することを目的に活動する部会です。その記念すべき最初の催しとして「まちなかお月見アート」を企画しました。金華山に映える仲秋の名月をまちの3か所ほどをメインスポットに、お月見の風情を演出し鑑賞することを提案するものです。期間は9月20日から23日までの4日間で、妙照寺と常在寺から大仏殿にかけての通りを第1エリア、戦国の大道に面した四つ角を第2エリア、長良橋通りの伊藤家(ふくろう)の家を中心に第3エリアとし、エリア内にあるお宅の玄関先や軒先に用意したススキを飾っていただくなど、お月見の風情を創り出してください。協力をお願いします。いきま。また、大仏殿の東側の軒下には、若手作家・後藤 讓氏による「おぼろげな月の光のもと、ウサギの影が遊ぶアート作品」が展示され、今回の催しに花を添えていただきます。十五夜の22日は旧暦8月15日にあたり、23日は月が望、すなわち満月です。23日にはスタンプラリー形式で3つのエリアを回っていただき、ゴールの伊藤家にて湯茶などの振る舞いをします。雨天の場合はスタンプラリーは中止しますが、伊藤家にて茶話会を催します。お月見ですからお天気次第となりますが、多数の皆さまのご参加をお待ちしています。また、指定エリア以外のお宅でもお月見の創出をしていただけますようご協力をお願いいたします。

第2回御鯨街道ウォーク 9月25日(土)

全長9キロ(途中参加、離脱自由)・参加費無料・小雨決行

昨年、多くの参加者を得て行われました歴史探訪型のウォークが今年も開催されます。今年は岐阜公園総合案内所をスタート地点とし、出発前には木挽太鼓の演奏があります。

- 行程 9:00 岐阜公園総合案内所 出発前イベント(木挽太鼓の演奏)
- 10:00 出発
お鯨所跡(資料配布)→白木町公園(湯茶の接待)→御菌の榎(資料配布)
- 12:00 溝端公園(昼食、イベント)
加納八幡神社(湯茶の接待)
- 14:30 川手旧パチンコ店前(宿次イベント)
- 15:30 笠松問屋場・高嶋家(宿次の解説)
- 16:00 笠松湊ゴール(鮎雑炊の振る舞い) (まちの歴史探索部会)

第2回日帰りバス視察研修「長浜」

11月7日(日) 参加費2,000円 先着50名 井の口まちづくり会員限定企画(申込時の会員受付可)

まちの風景検討部会では、昨年度に引き続きまちづくり活動の勉強と会員相互のコミュニケーションを目的として、視察研修を企画しました。

バスによる移動で変貌を続ける滋賀県「長浜」を訪ね、まちづくりの経緯、課題と解決方法などを学習した後、まちなか散策を楽しみます。

新しい「長浜」は商業のまちづくりで成功したまちですが、地域住民の結集した熱い思いはいずれのまちづくり活動にも共通するものです。魅力的な井の口の継承活動を目指す私たちにとって有意義な視察となることでしょう。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

- 開催日 平成22年11月7日 日曜日
- 集合場所 岐阜公園名和昆虫博物館 東側
- 集合時間 8時15分(出発8時30分厳守)
- 行程 10時~12時 NPO長浜まちづくり役員との交流
12時~13時 のっぺいうどんの昼食
13時~15時 黒壁スクエアおよび周辺自由散策
17時15分頃 岐阜公園着(途中「胡麻の里」にて休憩)
- 参加費 2,000円(会員限定料金・当日乗車前に集金します)
- 申込方法 10月10日(日)まで(先着50名で締め切ります)に、堀 会長宅(大宮町1丁目・電話263-9540)へ下記申込書を持参

景観デザイン「我がまち探索」を12月に実施します

まちづくり活動を進めるには、我がまちをよく知ることが重要です。

私たちが毎日暮らすまちですから、知っている、分かっているつもりですが、観方を変えることによって、思わぬ発見に遭遇するものです。

●「我がまち探索」実施日 平成22年12月5日 日曜日(予定) ●

みんなで日頃見慣れた風景を新たな視点で探索しましょう。その結果を整理して、魅力ポイントや課題の共有、さらには新しい提案につなげる試みです。(まちの風景検討部会)

今年、例年以上に猛暑の夏でした。というより未だに厳しい暑さが続いております。ここ数年の異常気象が大切にならなければならぬ地球を人間自らが傷つけた結果であることは、誰もが思っていることでしょう。未来の子孫に地球を地球らしく渡すためにはもっと努力が必要なのではないでしょうか。

まちづくりの基本も同じだと思えます。私たちのまちの素晴らしさをもとに認識し、子どもたちにつなげていく。まちの魅力も人々の魅力もひっくり返して未来に伝える。色々な価値観が大きく変化している今こそ大切な時だと思えます。

井の口まちづくり部会は部会の活動が活発になり、特にアート部会のお月見イベントなど新しい試みで楽しんでいます。また、歴史探索部会のリーダーが今年度は自治会等の業務が爆発的に増え、まちづくり部に費やす時間が限られてきましたので、私が代行として動くことにしました。句会の開催など企画を進めて参りますのでよろしくお願ひします。

事務局だより

事務局長 河崎良史

「長浜」バス視察研修参加申込書

氏名			
住所	TEL	-	-
同行者名(家族のみ)			受付No.